

連載 プロマネの現場から

第 124 回 中国におけるリープフロッグ現象

蒼海憲治 (大手 SI 企業・上海現地法人・技術総監)

北京オリンピックが終わったら中国経済は崩壊する、上海万博が終わったら崩壊する、といわれたように、日本における「中国経済崩壊論」は根強く、二十年ほど前からあります。そもそも何をもって「崩壊」と定義するかによるのかもしれませんが、そういわれている間に、中国経済は成長し、現在の GDP は日本の 3 倍ほどになっています。ただし、この数字そのものも、中国の統計情報は信用できない、現在も依然として日本経済の方が大きい、と主張する人もいます。その理由は、かつてのソ連が数字を水増しし、崩壊した後は数分の 1 の経済規模しかなかったから、それと同じことが中国においても起こっているのではないか、ということだと思えます。

その真偽と程度は、正直わからないのですが、そう論じる人の心情の根底に、日本経済が依然として中国に負けているはずはない、という思いがあるからではないでしょうか。特に、街並みのきれいさの度合いや、電車やバスの乗降時や乗車時の交通マナー、トイレ事情などをみると、まだまだ日本の方がきれいで整然としています。

道路には高級車があふれ、最先端の技術が導入されている一方、依然として、日本の 1960 年代から 70 年代・80 年代の雰囲気を持つ場所があるのも事実です。つまり、社会としては 30 年から 50 年ほど遅れているような印象を持つ部分もあります。そのため、日本と中国とを比べて日本の方が遅れている、といわれても納得できないのだと思えます。

そして、そのギャップは、それまで発展していなかった途上国が、一気に先進的な技術を取り入れることで、あっという間に発展する「リープフロッグ」という現象が腹落ちしていないからではないか、と思っています。

最近の中国で起こっている、日本だけではなく欧米などよりも進んでいる現象を少し紹介します。

1. キャッシュレス社会
2. 社会信用スコア
3. シェア自転車
4. ネット通販
5. 電気自動車 (EV)
6. 高速鉄道網

はじめの4つは、スマートフォンをベースとしており、スマホベースの社会基盤が構築されています。

1. キャッシュレス社会

フランスの調査会社である Ipsos が、2016年末にアジア諸国や南米、ヨーロッパなど、世界23カ国を対象に行ったモバイル決済普及率に関する調査結果によると、2016年時点、中国77%、インド76%に対して、日本27%となっています。

中国では、偽札が横行していたため、偽札の恐れのある現金取引を避け、キャッシュレスの取引が一気に普及しました。それを可能にしたのは、中国国民の9割が保有しているという銀聯カードの口座と、アリババ社のアリペイ、テンセント社のウイチャットペイを利用して、デビットカードの決済機能が使えるようになったためです。

これまで、14億人という莫大な人口に対して、一人一人の個人の信用を評価するしくみが整備されていなかったため、中国では、クレジットカードは普及していませんでした。

現在、アリペイとウイチャットペイは、通常の店舗で使用できるのはもちろんのこと、露天商、さらには、路上の乞食の人の足元には、投げ銭をするためのQRコードがついています。

また、個人間やグループ間でお金のやり取りもできるため、宴会後の割り勘や、お正月には「紅包（ホンバオ）」とよばれる「お年玉」を、スマホを通して、上司から部下、プロマネからプロジェクト・メンバーに対して配布します。

2. 社会信用スコア

現金の利用から、アリペイとウイチャットペイの利用に代わったことにより、この大手2社に、利用者のお金の使用状況やシェア自転車の利用状況、さらにSNSの利用状況等が膨大に蓄積されています。

アリペイであれば「芝麻信用（ジーマ信用）」によって、利用者一人一人の格付けがなされ、点数付けがなされています。「芝麻」とはゴマのことであり、別名、セサミクレジット、ゴマ粒のように信用が積み重なっていくことから命名されています。具体的には、「身分特質」（社会的ステイタス）、「履約能力」（資産、収入）、「信用歴史」（クレジット履歴）、「人脈関係」（交友関係の信用スコア）、「行為偏好」（消費行動の偏り）の5つの観点があり、これらの要素を人工知能が評価し、総合得点が表示されます。総合得点は、最低で350点、最高が950点であり、個人を5段階に分けています。350点から549点は「ダメ人間」、550点から599点は「普通人間」、600点から649点は「良好人間」、650点から699点は「優秀人間」、700点から950点が「超優秀人間」と、とても赤裸々です。ちなみに、アリペイを利用開始してちょうど1年経った現在、私のスコアは616点です。

この点数によって様々な特典を受けることができるようになります。このスコアの多寡によって、融資の可否や融資額が決まったり、飛行機のチェックイン時の優先搭乗ができたりします。その他、一定得点以上を持っていると、ホテルのデポジットが不要になります。通常、ホテルでチェックインする際は、宿泊料金と同じか、2~3倍程度のデポジットをクレジットカードで支払うことになるので、便利になります。同様に、病院における診察前のデポジットも不要になります。

日本と比べた場合、中国は「民度が低い」という言い方がされることがありますが、この社会信用スコアが広まったことにより、ここ数年でマナーが著しく向上したといわれています。たとえば、この後に紹介するシェア自転車の利用は、乗り捨て時に乱暴な扱いをした場合、スコアが下がります。さらには、スコアが著しく低い場合、場合によっては就職や結婚にも影響してきます。そのため、スコアを少しでも上げようとする気持ちをみんなが持つことで、「民度」が向上することになります。

3. シェア自転車

一昨年から急速に普及したシェア自転車ですが、1時間、1元=17円という非常に安価な金額で利用することができます。パンクしないタイヤを使っているため故障しにくく、乗り捨て可能です。上海など大都市部においては、交通渋滞が激しく、またタクシーもなかなかつかまらないため、非常に便利です。

これもアリペイとウイチャットペイというスマホ決済のインフラがあったから比較的容易に実現できたといえます。

4. ネット通販

以前、中国においては、11月11日が「独身の日」と呼ばれ、アリババ・グループのECサイトが、一日で、楽天市場の年商以上を売り上げるということを紹介しました。

赴任当初は店舗での購入ばかりでしたが、現在は、少しかさばる商品を買う場合、スマホを利用しての購入が多くなっています。

特に、出前サービスはとても便利で、夜、帰宅後に、多くのお店から好きな料理を選ぶと、わずか5元=100円程度の手数料を払えば30分ほどで届けてもらうことができます。配達人が多数存在することで実現できるビジネスモデルですが、この配達人の給料が平均賃金以上で、ネット通販が好調なこともあり、毎年待遇の改善がされています。

また、中国の方を見ていると、爆買いとともに、越境ECを使用しての購入が広がっています。これらのビジネスは、使いやすいPCやスマホ等のシステムだけが優れているのではなく、オンラインで受け付けた後の、顧客一人一人の家やオフィスまで確実に配達するオフラインの部分がしっかりしていることによって成り立っています。

5. 電気自動車 (EV)

深圳にあるBYD（比亚迪）は、電気自動車の販売台数において世界一になっています。大気汚染を減らすための対策として、排気ガスゼロの電気自動車・EVバスが、中国政府の後押しもあり推進されています。

また、上海や北京など大都市では、ナンバープレートの取得は制限されており、抽選での入手になります。当選確率は、最近では5%ともいわれ、非常に厳しくなっています。さらに、抽選であたった場合でも、10万元=170万円を支払う必要があります。

ただし、電気自動車を購入する場合、ナンバープレート代が無料となり、日本のエコカー減税と同様に恩恵を受けることができます。

6. 高速鉄道網

中国の高速鉄道網は、全長1万5500マイル（約2万5000キロメートル）あり、世界最長です。日本の新幹線の総延長は3132キロメートルであるため、すでに8倍以上になっていますが、2015年の一年間だけで3306キロメートルが完成しており、2020年までに1万8600マイル（約3万キロメートル）まで拡大する予定です。

Vibrant Express（動感号）と名付けられた列車の最高速度は時速350km/hで、地方の主要都市との接続も、随時進んでいます。

日頃利用している上海虹橋駅は、この高速鉄道車両が30車線も並んでおり、圧巻です。

ところで、「リープフロッグ」現象とは何でしょうか？

リープフロッグ (Leapfrog) とは、直接的には、Leap(跳躍)する Frog(カエル)のこと、「馬飛び」を意味します。が、そこから転じて、最近の中国やインド、一部アフリカ等、成長著しい新興国・途上国における経済発展現象を指します。つまり、最先端のテクノロジーを活用することにより、これまで先進国が数十年の歳月をかけて遂げてきた発展過程を、一足飛びで実現する現象が起きていることを指しています。

この「リープフロッグ」現象がなぜ起こったのでしょうか？

発展途上国・新興国は、技術もない、国民の所得も低い、インフラも整備されていないというイメージがある方が多いと思います。

それでは、そのような環境下で、なぜ最先端まで一足飛びに発展できるのでしょうか？

1. 社会インフラが未整備

実は、何もなかったからこそできた、といえます。

たとえば、更地にゼロからビルを建てるのと、既に建っているビルを壊してから立て替えるのとではどちらが大変か？

さらに、既に建っているビルに大勢の人が住んでいるところで、同じ場所で再構築を求められた場合はどうか、ということ想像してみると、その大変さがわかると思います。

実際、多くの発展途上国・新興国では、固定電話が普及していなかったからこそ、スマホが一気に普及した。銀行インフラが未整備だったからこそ、スマホ決済によるキャッシュレス社会が実現した。

つまり、先進国のような社会インフラがほとんど無い状態だったからこそ、新しいもの・最先端の技術が普及し、それをベースにした社会を作ることができている、といえます。

2. 先進国からの技術提供

ニーズはあっても、そのニーズを満たす技術がなければ、社会インフラを整備することはできません。

先進国から30年~50年ほど遅れていたように見える発展途上国・新興国において、既に技術を持っている先進国が市場として参入することで、技術移転や社会インフラの整備が、急速に進むこととなります。

3. 法律や規制が未整備

先進国においては、社会インフラが整っている一方、過去の導入の歴史から、多種多様な法律や規制が存在します。昨今のドローン、AI、ロボット、自動運転等、新技術の展開において、これらの厳格な法律や規制により、普及には長い時間がかかります。

一方の発展途上国・新興国は、そのような法律や規制が無いため、新技術をスピーディに導入することが可能です。

中国においては、いったん新技術の導入を認めておいてから、現実の実運用を通して、法律や規制が整備されていきます。事前に、起こりうる事故や障害を想定し、その対策がとられない限り実施しない日本とは大きく異なっています。

「リープフロッグ」現象の課題とは何か？

最先端の技術をベースにした社会というものの、さまざまな課題が存在します。

1. 停電、スマホの紛失・盗難

スマホベースの社会基盤となっていることは、いったんスマホが使えない状況になると、著しく不便が生じる恐れがあります。

地震や火事などの災害が起こった時、スマホのネットワークが利用できなくなったり、スマホの紛失・盗難したときの影響は大きいです。スマホがなければ、電子決済ができないため、食料品も買えなくなる恐れがあります。

2. プライバシーの侵害

社会信用スコアは、現在の日本人の感覚からすると、プライバシーの侵害として、到底受け入れられないと思います。

すべての決済取引や位置情報が把握されている状況は、ジョージ・オーウェルの『1984年』のような監視社会の怖さを感じる人もいると思います。

また、個別企業によってスコアリングされた点数によって、就職や結婚にも影響が出るとすれば、「民度」向上と引き換えに是認できるかどうか、判断は大きく分かれると思います。

最後に、リープフロッグ現象が発生する条件の一つには、新しいものに対する国民性の違いがあるのではないかと考えています。

画期的な新技術やサービスが提供された場合に、消費者に受け入れられ、社会全体に一気に普及するかどうかは、単に技術や法律や規制の違いだけではないのではないかと思います。

日本は、高齢化社会のために、スマホやクレジットカード等、新しいシステムを受け入れるのが難しく、また時間がかかります。その理由は、高齢化している人口構成の問題だけでなく、新たなものを積極的に受け入れるよりは、リスクを避ける保守的な日本人の国民性に起因しているところも大きいのでは、と思っています。

中国語学習の一環で見ていたNHKの『テレビで中国語』の最終回（2018年3月29日）は、中国語学習の生徒役を演じていた森迫永依さんが、中国に住む祖父母を訪ねるというものでしたが、とても印象的なインタビューでした。

森迫さんが、85歳になった祖父母と対面し、祖母の若い頃の話聞きます。

小さい頃は生活が苦しくて、一日三食食べられるだけで満足な生活だった。でも、実際には、一日一食しか食べられないことの方が多かった。学校は、小学校を4年生まで通ったが、お金がなかったので仕事についた。でも、勉強がしたくて、仕事をしながら高等専門学校に通ったと、いいます。

そして、驚いたことは、この森迫さんの祖母が、現在でも、スマホやパソコンなど最先端技術が利用できるようになるために、社会人大学で勉強している、ということでした。

「わたしは今も社会人大学に通っている。年を取っても生きて行く限り学び続けるよ。」

「いまパソコンや写真撮影を習っているんだ。もう85歳だけど、もっともっと勉強したい。」

「今の時代についていきたい。遅れてはいけない。」

スマホベースの社会基盤は、スマホが使えない人にとって、社会的弱者となる厳しい社会ともいえます。そのため、この森迫さんの祖父母のような高齢者の方にも、スマホやPCの利用の仕方を教える学校や周りの人たちの存在があって成り立つと思います。